

平成29年度 福岡県公立高等学校PTA連合会

健全育成委員会活動報告

平成30年 3月

平成29年度 福岡県公立高等学校PTA連合会 健全育成委員会活動報告

1 研究テーマ

「スマートフォン利用にかかわる実態調査」アンケート調査

2 テーマ設定理由

現在、スマートフォンは魅力ある様々な新しい機能を備え、普及がさらに加速している。高校生においても多数の生徒がスマートフォンを所持しているが、その利用について賛否両論問われている。このような状況下でスマートフォンの利用を負の捉え方でなく、安心・安全に利用し、利用価値を高めたいと考え、アンケート調査を実施することにした。

3 研究方法

アンケートによる実態調査

経緯

9月13日～10月10日までをアンケートの回答期間とし、県下4地区公立高等学校12校を対象に生徒各学年80名、合計2,880名に依頼し、合計2,852名の回答を得た。また、保護者についても各学年80名、合計2,880名に依頼し合計2,653名の回答を得た。アンケート回答者総数5,505名の協力を得て、アンケートによる実態調査を行った。

4 アンケート調査結果及び考察 別紙

5 まとめ

平成29年度健全育成委員会活動の研究テーマを「スマートフォン利用にかかわる実態調査」に設定し、多くの方々のご協力をいただき、アンケート調査を実施することができた。

アンケート結果から多くの子どもたちがSNSや音楽を聴くだけでなくインターネットを利用し、英単語などの調べ物やアプリを使用した「勉強」にも活用していることが分かった。しかし、子どもたちが安心・安全に利用し、利用価値を高めるためには保護者として子どもたちが利用するスマートフォンに対するある程度の「知識」を得る必要性があることを感じた。また、家庭内で十分なコミュニケーションを図り、保護者から子どもへ利用方法を伝えることが大切であると感じた。

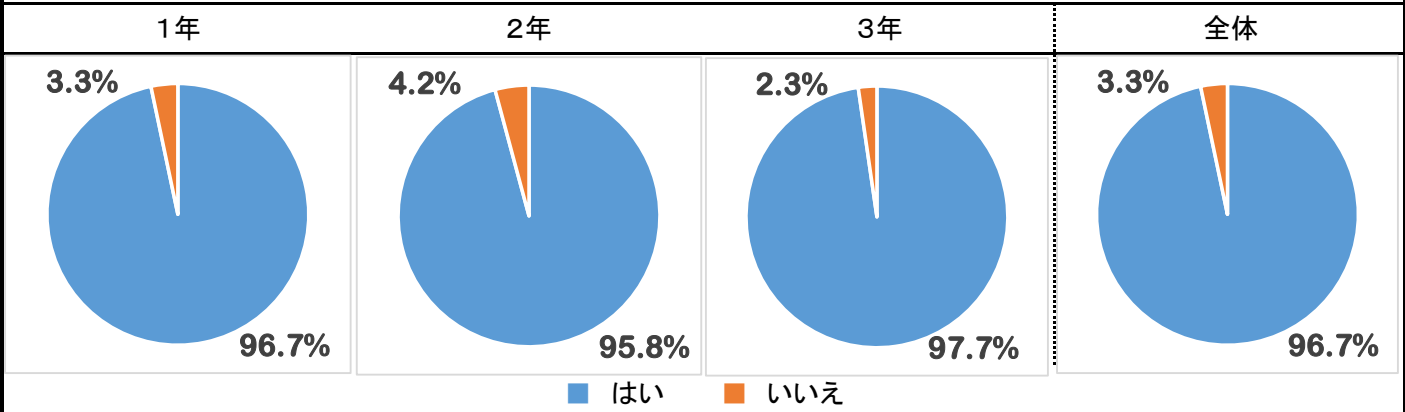
次に具体的な悪い影響として保護者、生徒の最も多い理由に「健康被害」があがっている。「どのように使用をさせるのか」「家庭内のルールをどう決めるのか」など保護者として利用方法について十分に考慮する必要がある。また、課題の1つである「使用時間の制限」「料

金の制限」等の「制限機能」に関してはアプリを活用できるという情報提供もあった。さらに、スマートフォンは「生活に悪い影響がある」と回答した保護者と生徒の回答に差異が見られたことも自覚する必要がある。

今後、スマートフォンはさらに普及が加速し新しい機能を備えていくことが予想される。そのような環境の中で子どもたちがスマートフォンを安心・安全に利用し、利用価値をさらに高めていくためには保護者として「どこまで関われるのか」「どこまで関わらなければいけないのか」アンケート結果を活用して欲しい。

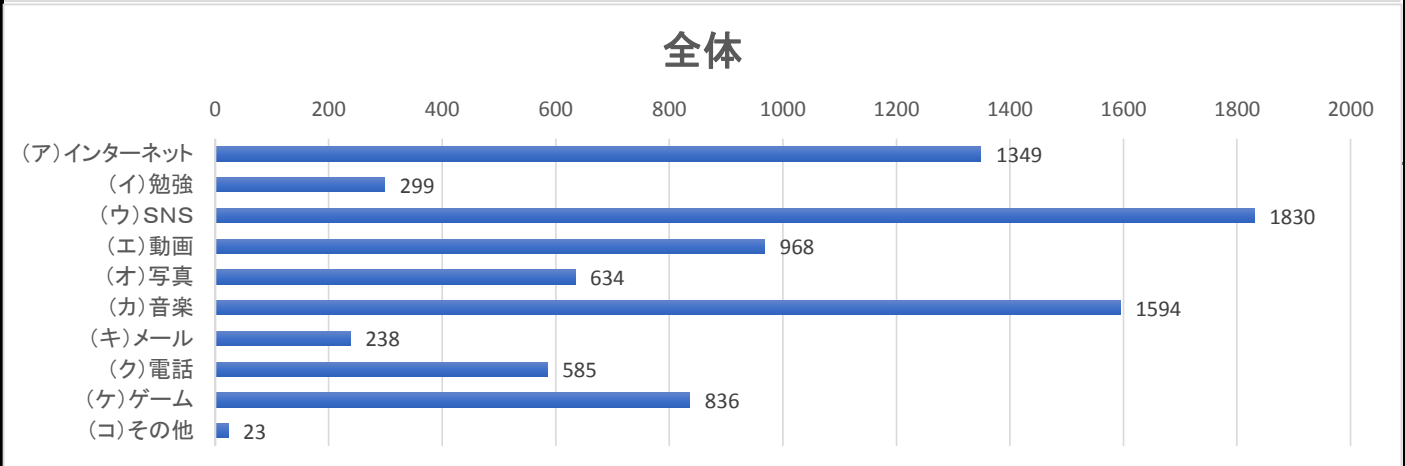
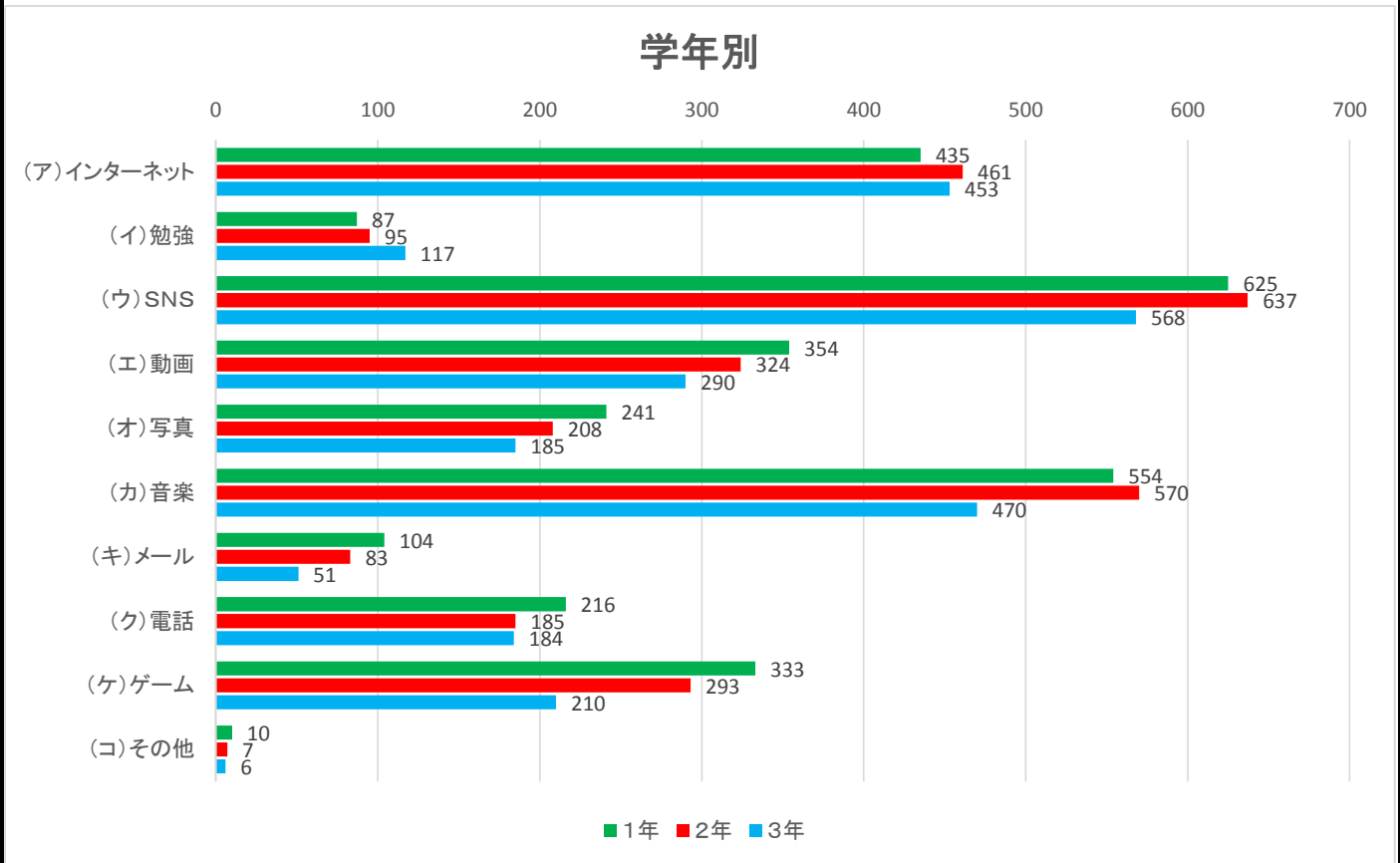
★ スマートフォン利用にかかわる実態調査（生徒集計）

1. あなたは自分のスマートフォンを所持していますか？



○全体の所持率は96.7%と所持率は高い。学年別においても全学年95%を超える所持率である。アンケート協力校別に見ると最高は99.1%、最低93.6%であった。いずれにしても所持率の高さが見られる。

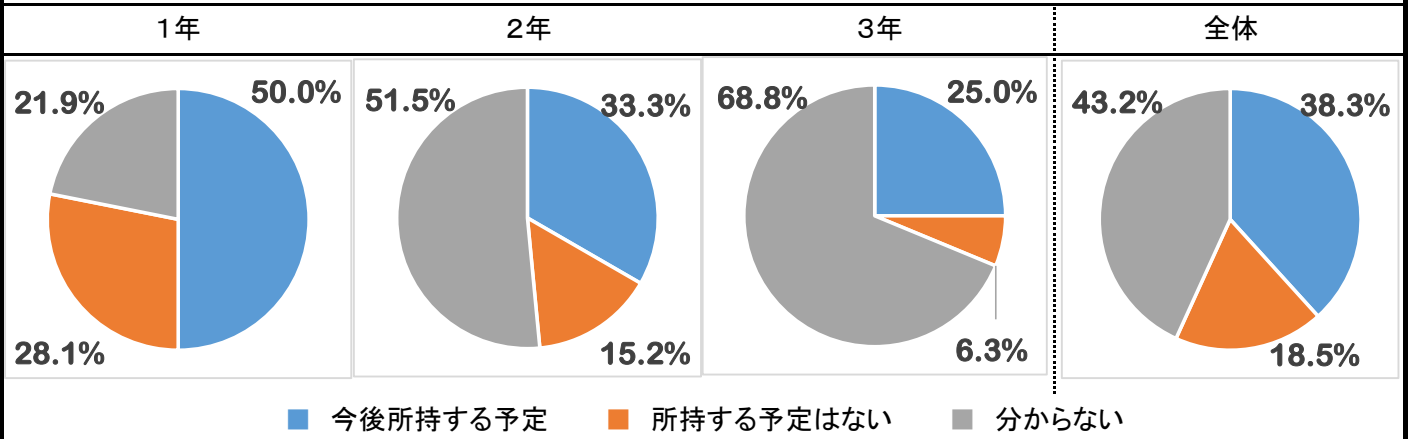
1-(ア) スマートフォンを利用しておもにどんなことに使用していますか？ 【はいの回答の方(3つまで回答可)】



★ スマートフォン利用にかかわる実態調査（生徒集計）

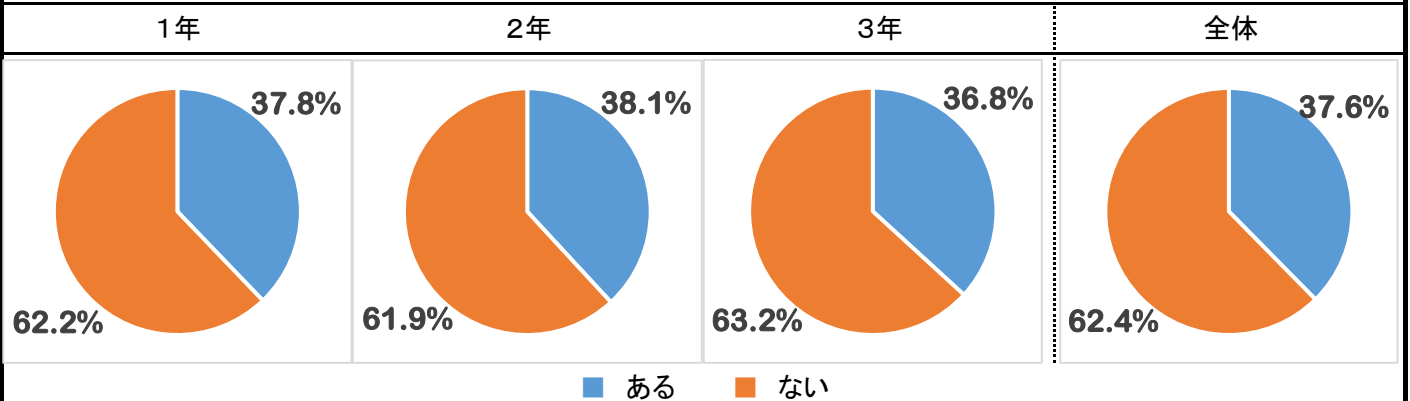
○「スマートフォンを利用しておもにどんなことに使用していますか？」(3つまで回答可)の質問に対して最も多かったのが「SNS」の使用であった。次に多かったのは「音楽」であった。中には「SNS」よりも利用が多い学校が2校見られた。次にインターネットの利用が多かった。気軽に調べ物が出来ることもあり、インターネットを様々な目的で利用していることが分かる。

1-(イ) スマートフォンを今後、所持する予定はありますか？ 【いいえの回答の方】



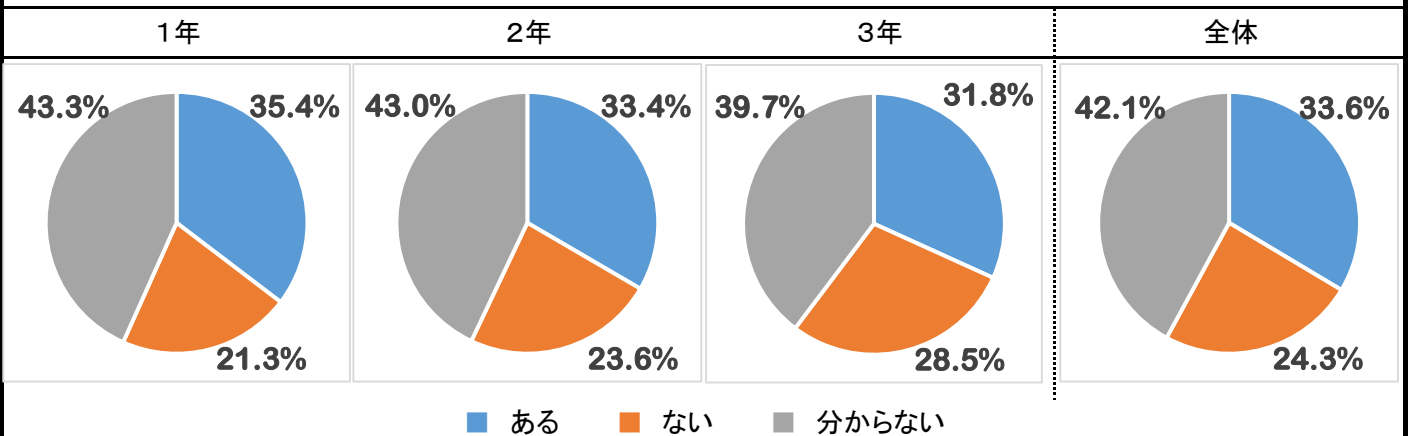
○アンケート回答者の3.3%(94名)がスマートフォンを所持していない。その中で「今後、所持をする予定」38.3%。「所持する予定はない」18.5%。「分からない」43.2%であった。学年別に見ると最も多いのが1年生は「今後所持をする予定」が多く、50%、2・3年生は「分からない」が半数以上を占めている。各学年「所持する予定はない」「分からない」を併せると高学年ほど高くなり、それほど必要性を感じていないということが予想される。

2. インターネットで知り合った人とメールや電話などで連絡を取ったことがありますか？



○「インターネットで知り合った人とメールや電話などで連絡を取ったことがありますか？」の質問に対して「ある」が全学年37%前後の回答が見られた。この数字が多いのか少ないのかは判断できない。インターネットの利用により交友関係の年齢層も広がり、広域化しているのは間違いないと思われる。見えない相手とインターネット上のコミュニケーションは保護者として不安を感じる。

3. スマートフォンは生活の中で悪い影響があると思いますか？



★ スマートフォン利用にかかわる実態調査（生徒集計）

	1年				2年				3年				全体		
	生徒	保護者	差異		生徒	保護者	差異		生徒	保護者	差異		生徒	保護者	差異
ある	35.4	47.8	-12.3	ある	33.4	45.6	-12.2	ある	31.8	43.6	-11.8	ある	33.6	45.2	-11.6
ない	21.3	13.2	8.1	ない	23.6	12.1	11.5	ない	28.5	14.9	13.6	ない	24.3	13.2	11.1
分からない	43.3	39	4.3	分からない	43	42.3	0.7	分からない	39.7	41.5	-1.8	分からない	42.1	40.4	1.7

○全体を見ると「分からない」が全学年で最も多い。また、上の表には生徒と保護者の意識の差異を表している。「スマートフォンは生活の中で悪い影響があると思いますか？」の質問に対して「ある」の回答が全学年において保護者との大きな差異があるのを確認することが出来た。

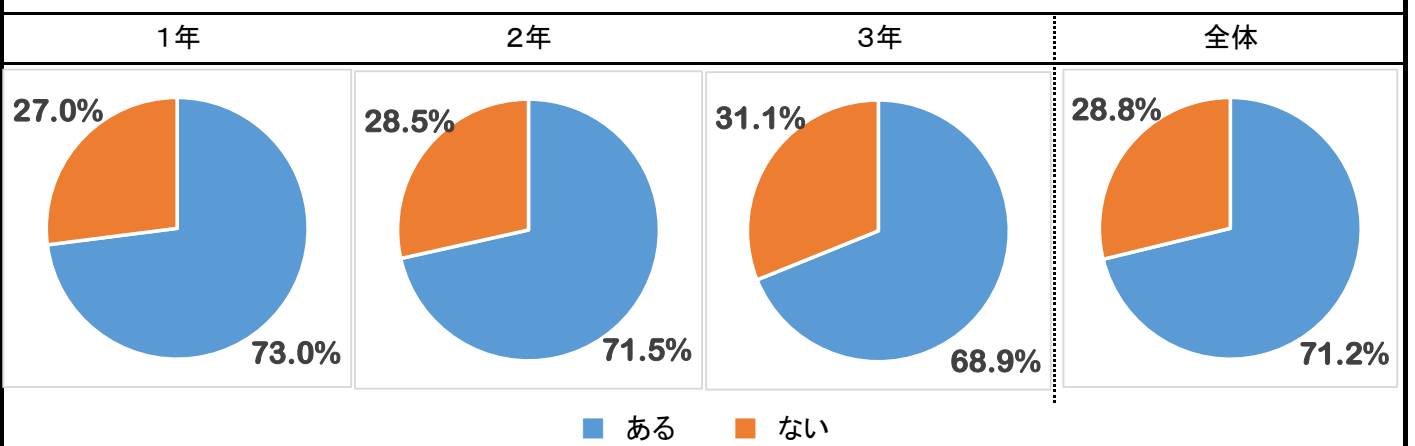
○具体的な悪い影響

「健康被害」が最も多く、具体的には「依存症」「視力低下」「睡眠障害」「悪姿勢」などである。次に「学習時間の低下」「トラブル」であった。その他に「SNS上の問題」「情報の流失」「イジメに繋がる」「人間関係の希薄」「使用中の事故」などであった。

○解決策

「使用時間の制限」「使用方法の制限」が最も多かった。具体的には「使用時間を決める」「親に預ける」「フィルム・ブルーライトメガネの使用」「明るいところで使用」などであった。特に使用時間の制限については生徒自身も使用時間が長いことを感じているようである。

4. スマートフォンを勉強に活用したことがありますか？



○具体的に

活用方法は多岐に亘っている。「調べ物」が圧倒的に多く、辞書等の代わりにスマートフォンを使用しているようだ。次に動画の活用が多かった。

・調べ物（英単語・熟語の意味調べ、発音、漢字、英数問題解説、情報収集等）

・動画（授業動画・スタディーアプリ等）

・その他（進路学習、分からないところを友人へ質問、資格試験勉強、本を読む、ノートとして活用、学習時間管理等）

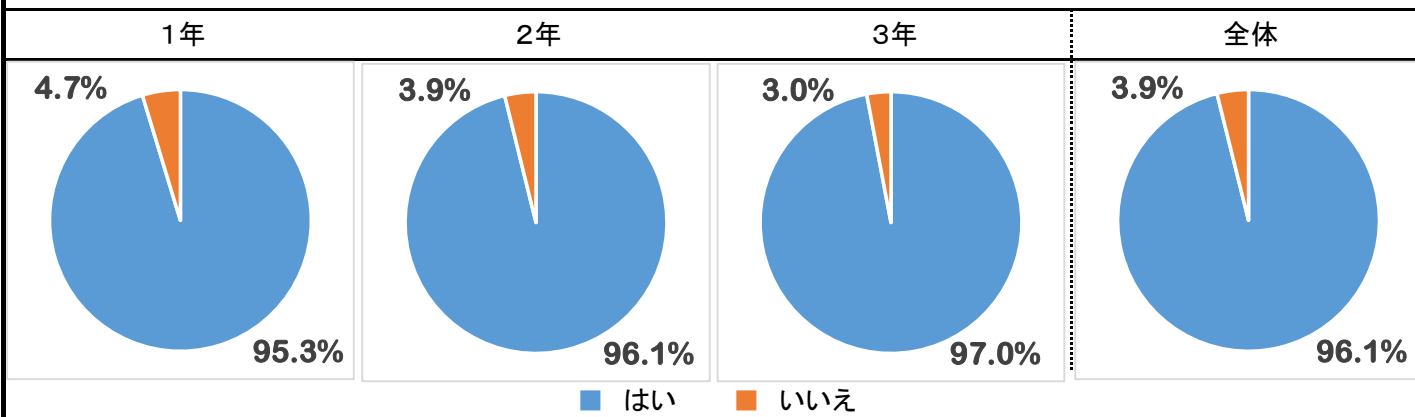
5. スマートフォンを利用してよかったことは何ですか？

○良かったこと

友人や家族と「連絡が取りやすい」が圧倒的に多かった。次に「直ちに調べ物ができる」（情報収集を含む）が多くインターネットを利用していることが見られる。また、「多くの人と繋がれる」「友人が増えた」などコミュニケーションを図る手段としての利用できることが良かったという意見も多く見られた。子どもたちにとってスマートフォンはコミュニケーションを図るためのツールでもあるようだ。その他に「SNSで助けられた」「暇つぶし」「ストレス解消」「隙間時間の学習」「生活が豊かになった」等があった。

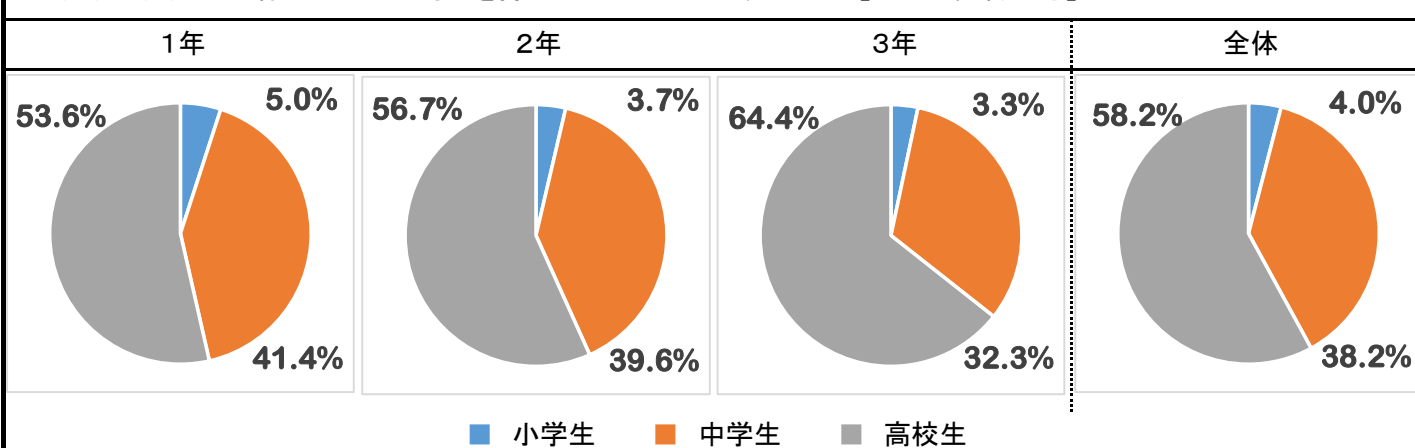
★ スマートフォン利用にかかわる実態調査結果（保護者）

1. あなたのお子様は個人のスマートフォン(携帯電話を除く)を所持していますか？



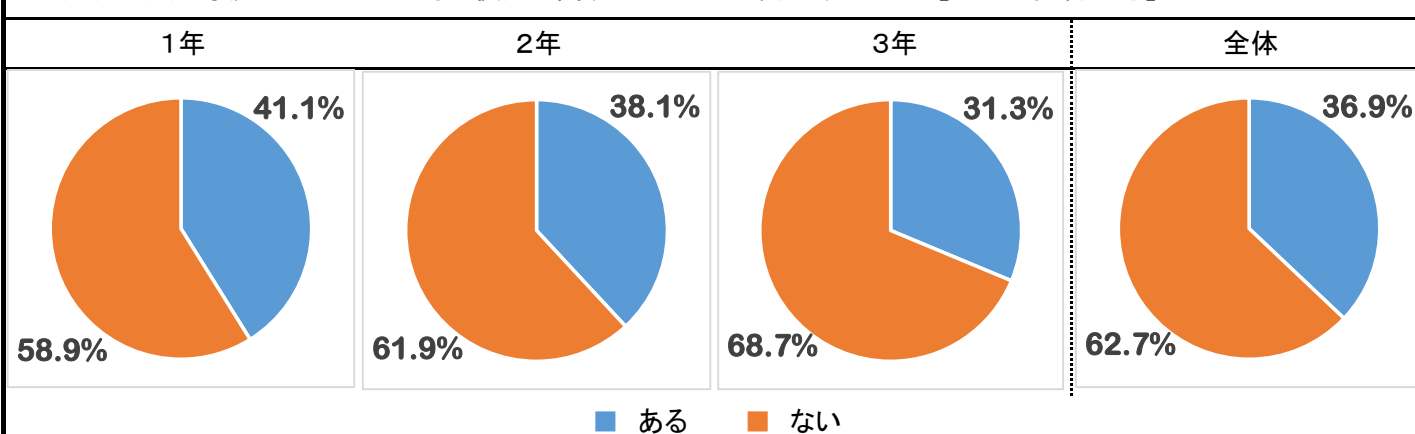
○保護者が子どもにスマートフォンを所持させている所持率は全ての学年において95%を超えていた。各学年の所持率は1年95%、2年96%、3年97%であった。学年進行に従い、高くなっている。一方、所持をさせていない保護者は全体で3.9%(103名)であった。

1-(ア)-(1) お子様にスマートフォンを持たせたのはいつですか？ 【はいの回答の方】



○全体を見ると高校生からスマートフォンを所持させているケースが58.2%と一番多い。全ての学年において高校からスマートフォンを持たせている。小学校からの所持をさせている保護者が4%、103名いる。内訳は1年45名、2年32名、3年26名であった。低学年ほど小学校からの所持率が高く、今後は小学校から所持をさせる低年齢化が進むことが予想される。

1-(ア)-(2) 家庭内でスマートフォン使用に関するルールはありますか？ 【はいの回答の方】



○家庭内に「ルールがある」は全体で36.9%と低い。「ルールがある」が上回った学校は12校中1校であった。学年別に見ると1年41.1%、2年38.1%、3年31.3%である。全体で6割以上の家庭においてスマートフォン使用に関するルールはないことが分かった。

★ スマートフォン利用にかかわる実態調査結果（保護者）

○家庭内ルール

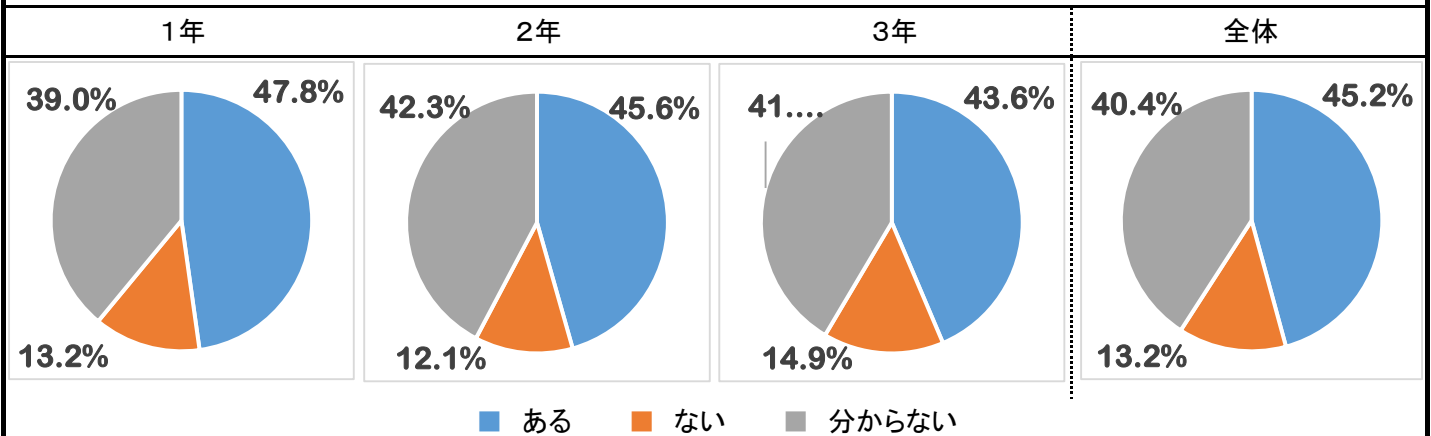
家庭内ルールで最も多いのは「使用時間の制限」であり「食事時の使用禁止」「20時30分以降は使用しない」等であった。次に「使用方法に関するルール」が多く、例えば「自分の部屋に持ち込ませない」「課金しない」「不審なサイトは開かない見ない」「有料サイト・アプリ禁止」であった。中には「個人情報公開禁止」「成績が下がったり、目に余るような使い方が目立つ場合は没収」「露出の高い自分撮りは撮らない」等があった。

1-(イ) スマートフォンを持たせない理由をご記入ください。【いいえの回答の方】

○理由

「必要なし」の理由が一番多かった。中には「本人と話し合い、必要ないと判断した。」「自己管理できない。」「我慢させるのも必要。」等の内容であった。次に「自主性に任せている。」「経済的理由・料金が高い」が多かった。その他として「携帯で十分」「色々な問題に巻き込まれたくない」「パソコン・タブレットがあるから」「勉強に支障がある」「自ら情報の収集能力を身につけて欲しい」等の理由であった。

2. スマートフォンは生活の中で悪い影響があると思いますか？



	1年			2年			3年			全体		
	保護者	生徒	差異	保護者	生徒	差異	保護者	生徒	差異	保護者	生徒	差異
ある	47.8	35.4	12.3	45.6	33.4	12.2	43.6	31.8	11.8	45.2	33.6	11.6
ない	13.2	21.3	-8.1	12.1	23.6	-11.5	14.9	28.5	-13.6	13.2	24.3	-11.1
不明	39	43.3	-4.3	42.3	43	-0.7	41.5	39.7	1.8	40.4	42.1	-1.7

○「スマートフォンは生活の中で悪い影響があると思いますか？」この質問は保護者、生徒共通の質問である。全体を見ると「ある」が最も多く、保護者は何らかの悪い影響を感じているようだ。また、表には保護者と生徒の意識の差異を表している。「スマートフォンは生活の中で悪い影響があると思いますか？」に対して「ある」の回答に大きな差異があるのを確認することが出来た。

○具体的な悪い影響

「健康被害」が最も多く、視力低下、睡眠障害、悪姿勢などが上がっていた。次に「コミュニケーション能力の低下」「学習時間の低下」「自転車・歩きスマホ事故」であった。その他に「SNSの中だけで人間関係を作ってしまう」「情報の流失」「イジメに繋がる」「情報過多」「犯罪に繋がる」などであった。

○解決策

生徒の回答と同様で「使用時間の制限」「使用方法の制限」が最も多かった。次に「子どもとしっかりコミュニケーションをとる」であった。中にはペナルティとして「没収する」等があった。その他として「LINEの指導」「大人が手本を示す」「声掛けをする」「時間制限機能を付けて欲しい」「信頼して見守る」等があった。保護者としては「健康被害」が最も多い悪影響と考えており、時間の制限や使用の制限が必要であると考えているようである。

3. スマホ時代の今、保護者にできることが何だと思えますか。ご記入ください。

○保護者にできること

「家庭内での会話による指導(使用の仕方、メリット・デメリットについて)」「本人と話し合ってルールを決める」「親の管理・監視」が最も多かった。特に子どもとのコミュニケーションを図りながら指導していくとの意見が多く見られた。中には「SNS書き込み禁止」「保護者も情報化を意識する」「本人の使い方を信じる」等があった。その他として「パスワード管理」「スマホの恐ろしさを教える」「スマホがなくても生活できる方法や術を教える」「学校でも22時以降使用禁止のルールを作りたい」「自己責任を持たせること」等があった。実際、保護者においても子どものスマートフォンの使用に関しては気になっているのではないかと推測する。

福岡県公立高等学校PTA連合会

会 長 三 根 広 次

健全育成委員長 田 川 裕 治

事務局 長 大 塚 春 生